

佐野市の学校における働き方改革の具体的な取組内容

<凡例>

重点・継続・新規については、教育委員会での対応を示している。

◎：主体となる団体・組織・個人等

○：指導・助言・支援等を行う団体・組織・個人等

学校と教師の業務の3分類に関すること			取組主体			
			◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等			
1 学校以外が担うべき業務			市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①登下校時の通学路における日常的な見守り活動等						
新規	ア	教育委員会が中心となり保護者または地域住民その他関係者が担う体制の整備に向けた取組の検討	◎	○		◎
②放課後から夜間などにおける校外の見回り、児童生徒が補導された時の対応						
重点	ア	放課後から夜間等における見回りは、学校以外の主体（地方公共団体、教育委員会、保護者、地域人材等）が中心に行うよう整備	◎			◎
重点	イ	児童生徒が補導された時の対応は、保護者及び学校以外の主体が中心に対応するよう周知	◎			○
	ウ	児童生徒に対する外部機関、地域住民等からの通報や連絡に対する初動の対応	○			◎
	エ	問題行動等を行った児童生徒の初動の対応後の対応	○	○	○	◎
③学校徴収金の徴収・管理						
継続	ア	給食費の公会計化	◎			
継続	イ	インターネットバンキングの導入	◎			
	ウ	学校徴収金徴収業務の効率化の推進	○	◎		
④地域学校協働活動の関係者間の連絡調整等						
重点	ア	地域人材等との連絡調整を地域コーディネーターが中心に行うための取組や対応についての検討	◎			◎
⑤保護者等からの過剰な苦情や不当な要求等の学校では対応が困難な事案への対応						
継続	ア	学校では対応が困難な事案への対応する相談窓口の設置	◎			
継続	イ	学校が利用できる弁護士等の専門家の活用できる環境の整備	◎			

学校と教師の業務の3分類に関すること		取組主体			
		◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等			
2 教師以外が積極的に参画すべき業務		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
⑥調査・統計等への回答					
継続	ア	文書削減の依頼	◎		
継続	イ	学校現場の負担軽減に資するための取組方法等の適宜見直し	◎		
⑦学校の広報資料・ウェブサイトの作成・管理					
重点 継続	ア	教員業務支援員（SSS）の配置	◎		
継続	イ	教職員が利用しやすいWebサイトシステムの検討・導入	◎		
	ウ	教員業務支援員（SSS）による保護者等への配付通知、学校便り、地域回覧資料等の印刷		◎	
	エ	特定の職員に偏らないWebサイトの作成・更新		◎	
	オ	教員業務支援員（SSS）による記録写真の撮影		◎	○
⑧ICT 機器・ネットワーク設備の日常的な保守・管理					
継続	ア	情報教育アドバイザーの配置	◎		
継続	イ	情報教育アドバイザーによるICT機器等の不具合の定期的・突発的な対応	◎	◎	
継続	ウ	教育委員会と学校が連携したICT機器・ネットワーク設備の日常的な保守・管理	◎	◎	
⑨学校プールや体育館等の施設・設備の管理					
継続	ア	学校用務員の配置	◎		
継続	イ	学校管理課と連携した学校施設・設備の管理、修繕	◎	◎	
継続	ウ	学校用務員と連携した学校施設・設備の管理、修繕		◎	○
⑩校舎の開錠・施錠					
継続	ア	機械警備の導入	◎		
継続	イ	管理職等特定の教職員に負担が集中しない仕組み	◎	◎	
⑪児童生徒の休み時間における安全への配慮					
	ア	休み時間等の見守りボランティアの導入	○	◎	◎
⑫校内清掃					
	ア	清掃ボランティアの導入	○	◎	◎
	イ	校内清掃の実施回数や場所の精選、輪番制		◎	

学校と教師の業務の3分類に関すること		取組主体				
		◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等				
2 教師以外が積極的に参画すべき業務		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域	
⑬部活動						
重点 継続	ア	部活動地域展開推進計画の策定・周知	◎	○		
重点 継続	イ	休日部活動の地域クラブ活動への移行の促進	◎	◎	◎	◎
継続	ウ	平日部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行の促進	◎	◎	◎	◎
継続	エ	地域クラブ活動の指導者の確保・配置促進	◎	○		◎
継続	オ	部活動指導員の確保・配置促進（中学校・義務教育学校）	◎	○		◎
継続	カ	運動部活動等外部指導者の配置促進	◎	○		◎
継続	キ	指導者確保のための団体等との連携	◎	○		
	ク	佐野市運動（文化）部活動の在り方に関する方針」を踏まえた「学校の部活動に係る活動方針」の策定・公表	○	◎		
	ケ	「学校の部活動に係る活動方針」に基づいた、年間活動計画並びに毎月の活動計画及び活動実績の作成	○	◎	○	
	コ	学校や生徒の実情に応じた部活動数の適正化、運営・指導に係る体制の構築	○	◎	○	
	サ	各種方針に基づいた部活動の合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進	○	◎	◎	
	シ	参加する大会や練習試合、コンクール等の見直し	○	◎	◎	○

学校と教師の業務の3分類に関すること			取組主体			
			◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等			
3 教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務			市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
⑭給食の時間における対応						
継続	ア	栄養教諭・学校栄養職員の配置	◎			
継続	イ	さわやか教育指導員等の配置	◎			
	ウ	栄養教諭・学校栄養職員と連携した食に関する指導の実施	○	◎	◎	
	エ	さわやか教育指導員等と連携した配膳支援、児童生徒への支援	○	◎	◎	
⑮授業準備						
継続	ア	教員業務支援員（SSS）による授業準備		◎	◎	
継続	イ	授業準備のためのクラウド利用可能な端末等の整備	◎			
⑯学習評価や成績処理						
	ア	AIドリルを使った学習履歴の活用	○	◎	◎	
⑰学校行事の準備・運営						
	ア	行事の準備等へのボランティアの依頼	○	◎	○	
	イ	行事の準備等へボランティアとして参加				◎
⑱進路指導の準備						
	ア	特定の職員に偏らない進路情報の収集		◎		
⑲支援が必要な児童生徒・家庭への対応						
重点 継続	ア	SC、SSW、スクーリングサポーター、日本語指導ができる日本語教室指導員等の専門的な人材の配置	◎			
重点 継続	イ	さわやか教育指導員、さわやか健康指導員、特別支援教育支援員等の配置による児童生徒への支援	◎			
新規	ウ	校内教育支援センターへの職員の配置の検討	◎			
	エ	上記ア・イの専門的な人材の活用		◎	○	

学校業務の適正化等に関すること		取組主体			
		◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等			
1 計画の策定や見直し等の取組		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①計画策定等の取組					
新規	ア	業務量管理・健康確保措置実施計画の策定及び公表（市計画）	◎		
新規	イ	市計画の内容及び実施状況の総合教育会議への報告	◎		
新規	ウ	保護者や地域に教員の時間外勤務時間（市の平均値）の状況を公開発信	◎		
	エ	学校経営方針等への業務量管理・健康確保措置に関する内容の位置付けの検討		◎	
	オ	自校の働き方改革推進プランの策定（自校プラン）		◎	
	カ	学校運営協議会での業務量管理・健康確保措置実施計画の実施内容（自校プラン）の承認・実施状況の報告	○	◎	◎
	キ	学校評価への業務量管理・健康確保措置等に関する内容の位置付けの検討		◎	
②計画の見直し					
継続	ア	国及び他都道府県の動向を注視した制度運営上の課題の検討	◎		
	イ	学校評価等に基づく学校運営の改善措置等の自校プランへの反映		◎	

学校業務の適正化等に関すること		取組主体				
		◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等				
2 学校及び教職員による主体的な取組		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域	
①学校による主体的な取組の推進						
	ア	自校プランに対するP D C Aによる取組の実行・改善・強化		◎	◎	
②管理職のマネジメント力の向上・リーダーシップの発揮						
継続	ア	管理職対象の働き方改革に係る啓発の実施	◎			
継続	イ	教職員評価を通じた学校の働き方改革の指導・助言 (教育委員会から校長へ)	◎			
	ウ	所属職員の在校等時間等の適切な把握		◎		
	エ	校長のリーダーシップによる教職員のアイデアを活かした取組実行		◎	○	
	オ	前例踏襲ではない、所属職員の業務内容や勤務状況を踏まえた改善		◎	○	
	カ	所属職員の主体的な取組を促し、「働きやすさ」と「働きがい」の両立する職場づくりを推進		◎	◎	
③一人一人の教職員による働き方の見直し・意識改革						
	ア	教職員への働き方改革の目的や取組の周知	◎	◎		
	イ	教職員間での課題意識の共有と、子どもたちの教育環境が充実するための効率よい業務の進め方		◎	◎	
	ウ	自身の働き方を見つめ直し、自分事として働き方改革の取組を実行		○	◎	
④若手教員のサポート						
	ア	管理職の声かけや、教材の共有・O J Tによる若手教員の育成		◎	◎	
	イ	若手教員のメンターとなるミドルリーダーの育成	○	◎	◎	
⑤事務職員と教員の連携・協働の推進						
	ア	学校運営における事務職員の専門性を生かした教員との連携・協働	○	◎	◎	
⑥市会計年度職員等との連携・協働の推進						
継続	ア	学校図書館事務員の配置	◎			
継続	イ	給食配膳員の配置(業務委託)	◎			
	ウ	学校図書館事務員と連携した学校図書館の整備、管理		◎	◎	
	エ	給食配膳員による配膳準備・片付け		◎	◎	

学校業務の適正化等に関すること		取組主体			
		◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等			
3 校務の改善・効率化・明確化		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①教育課程の工夫・見直し					
	ア	日課表や授業時数の工夫・見直し等の積極的な取組実施	○	◎	
②業務の役割分担の見直しと適正化					
継続	ア	「学校と教師の業務の3分類」についての取組の更なる推進	◎	◎	◎
③行事・会議等の精選・重点化					
	ア	子どもたちの教育環境が充実するために改善・削減する学校行事等の洗い出しと見直し、会議の精選		◎	◎
	イ	校務分掌・委員会等の校内組織の統合や見直し、大胆な業務効率化		◎	◎
④教育委員会が主催する会議・研修会の見直し					
継続	ア	会議の削減やオンラインとの併用による効率化と負担軽減	◎		
継続	イ	県と市教育委員会等で重複した研修の整理・精選	◎		
継続	ウ	市主催の研修会後のアンケートのICT化	◎		
⑤ICT等を活用した業務改善					
継続	ア	学校事務の一層の効率化（統合型校務支援システム等の活用）	◎	◎	
重点 継続	イ	一斉メール配信システムの整備	◎		
継続	ウ	アンケート機能・フォーム機能の整備・活用の周知	◎		
重点 継続	エ	留守番電話の設置	◎		
継続	オ	会議や研修の目的にあわせたオンラインの活用による効率化	◎		
	カ	業務のデジタル化による、従来の業務手順などの見直しによる校務DXを通じた校内の働き方の改善（学校）		◎	◎
	キ	1人1台端末・一斉メール配信システムによるアンケート機能の活用		◎	○
	ク	ICTの効果的な活用（デジタル教科書、教材等の共有化、デジタル教材の活用、小テストの作成・採点等）		◎	◎

学校業務の適正化等に関すること		取組主体			
		◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等			
4 地域・PTA・関係諸団体との連携		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①学校における働き方改革の周知・協力依頼					
継続	ア	関係諸団体に対する学校の働き方改革の周知	◎		
継続	イ	関係諸団体が主催する会議等の削減や縮減に向けた働きかけや協力依頼	◎		
②コミュニティ・スクールと学校地域応援団の一体的推進					
継続	ア	CSアドバイザーの学校運営協議会等への派遣	◎		
継続	イ	地域コーディネーターへの研修	◎		◎
	ウ	学校運営協議会等を通じた、教職員の働き方をサポートするための連携・協働した取組の実施		◎	◎
	エ	地域人材によるボランティアの活用 (緑化活動、校内掲示等)		◎	◎
	オ	地域人材の募集・確保	○	◎	◎
③PTA・保護者・地域の理解を求める取組の実施					
	ア	PTA総会、学校運営協議会等で、自校の働き方改革の取組を説明		◎	◎

教職員の健康及び福祉の確保に関する取組		取組主体			
		◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等			
1 教職員の健康サポートに関する取組		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①教職員の健康サポートの推進					
重点 継続	ア	ストレスチェック・定期健康診断等の実施	◎	◎	◎
継続	イ	メンタルヘルスに関する研修の実施	◎	◎	
継続	ウ	衛生管理者・衛生推進者研修会の実施	◎		
新規	エ	心身の健康相談窓口等の設置と効果的な活用の推進	◎	○	
2 勤務時間・健康管理を意識した働き方		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①教職員自身によるセルフマネジメント					
	ア	教職員自身の健康管理と安全管理についての意識改革	○	○	◎
再掲	イ	自身の働き方を見つめ直し、自分事として働き方改革の取組を実行	○	○	◎
②勤務時間管理					
	ア	I C Tの活用等による客観的・適切な計測	○	◎	
	イ	休日・平日を問わず勤務実態に基づく正確な時間を記録することの徹底	○	◎	◎
	ウ	原則、業務の持ち帰りは行わないことの推進	○	◎	◎
	エ	「上限方針」を踏まえた取組の推進	○	◎	◎
③学校閉庁日の設定					
継続	ア	学校閉庁日の設定による休暇取得の促進	◎	○	
④定時退校日及び退校時間の設定					
	ア	ノー残業デーの設定・実施		◎	
	イ	最終退勤時刻の設定（遅くとも〇〇時まで等）		◎	

こども主体の授業の改善・効果的な教育活動に関すること			取組主体			
			◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等			
1 児童生徒の学習等に関わる取組			市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①授業に関する取組						
	ア	義務教育学校における乗り入れ授業の実施	○	◎	◎	
再掲	イ	地域人材によるボランティアの活用 (学習支援ボランティア)		◎	◎	◎
②授業以外での取組						
再掲	ア	地域人材によるボランティアの活用 (読み聞かせボランティア)		◎	◎	◎
2 学校の環境整備の取組			市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①学校環境の整備						
再掲	ア	地域人材によるボランティアの活用 (教材園・花壇・植栽等の整備、掲示物作成等)		◎	◎	◎
新規	イ	長期休業の見直し (夏休み及び冬休みの延伸の有効活用)	○	○	◎	◎

佐野市立学校の取り組み事例

本市の学校では、子どもたちにとってよりよい教育環境となるために、様々な関係者や関係機関の協力のもと、各校で実践している「一校一改革・一挑戦」において学校における働き方改革に取り組んできました。

これまで示してきた具体的な取組内容に加えて、各学校で取り組んできた学校における働き方改革の内容を分類・整理し、参考として紹介します。

(参考) 一校一改革・一挑戦において取り組んだ内容		取組主体			
		◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等			
1	時間を生み出す工夫	市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①日課等の工夫・改善					
	ア 朝の職員打合せの廃止		◎	◎	
	イ 水曜日の日課の見直し（下校時間を早め会議等の時間確保）		◎	◎	○
	ウ 日課・時間割の見直し（長期休業前後の4時間授業の実施）		◎	◎	○
	エ 児童生徒登校後の朝の時間の工夫 （登校後から朝の会までの時間をこどもに委ねる）		◎	◎	
②部活動等の取組					
	ア （小学校）部活動指導体制の見直し（指導体制と練習時間）		◎	◎	
	イ （小学校）小規模学校の特色を生かした陸上記録会・駅伝記録会の練習（6時間目を教科体育として全教職員で対応）		◎	◎	
	ウ 地域クラブ活動と部活動指導との連携	○	◎	◎	○
③休日・長期休業期間等における取組					
	ア 夏休みの登校日の廃止		◎	○	○
	イ 地域行事、奨励陸上大会への教員の引率の辞退 （行事主催者、参加するこどもの保護者による対応の依頼）		◎	○	◎

(参考) 一校一改革・一挑戦において取り組んだ内容		取組主体			
		◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等			
2 教職員の校内事務の軽減・新たな視点での取組		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①教職員の育成・意識改革					
	ア チーム対応（OJT）による児童指導・学習指導		◎	◎	
	イ 運営委員会を活用した主任同士の連携		◎	◎	
	ウ ボトムアップ（校務分掌担当者間での検討）		◎	◎	
	エ 教職員の自己成長を促す取組の奨励		◎	◎	
②ICT等を活用した取組					
	ア 善行賞作成の工夫 （入力フォーマット、SSSによる印刷、教室での表彰）		◎	◎	
	イ 学校備品のデータ管理化への取組		◎	◎	
	ウ 職員会議のペーパーレス化		◎	◎	
	エ 長期休業前後の集会のオンライン化		◎	◎	
	オ 一斉メール配信システムの活用 例 欠席・遅刻の連絡、水泳参加の同意の連絡 各種たより・PTA総会資料の配布 保護者対象の学校評価のアンケートの実施		◎	◎	◎
	カ 1人1台端末を活用した児童生徒のアンケートの実施		◎	◎	
③行事等の工夫					
	ア 宿泊学習における教職員の夜間動員の廃止		◎	◎	
	イ 就学時健康診断時の対応職員の最適化		◎	◎	
	ウ 登校指導日の縮減、当番日の固定化からの変更		◎	◎	
④提出物等の工夫					
	ア 週案の工夫 ・提出は週1回から原則月1回へ ・週の反省等の記載はしなくてもよい 等		◎	◎	
	イ PLANTを活用した出張の復命		◎	◎	

(参考) 一校一改革・一挑戦において取り組んだ内容		取組主体			
		◎：取組の中心 ○：取組への指導・助言・支援等			
3 これまでの習慣・慣例・当たり前等の見直し・時代に応じた変化		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①情報の発信方法の工夫・改善					
	ア 学校だよりを廃止し学校ホームページでの紹介に変更		◎	◎	○
	イ 学年だよりを廃止し学校ホームページでの紹介に変更		◎	◎	○
②通知表等の見直し					
	通信表の所見の見直し 例 通知表レイアウトの変更 1学期の通信欄のコメントは夏休みの面談で代替		◎	◎	○
③作品応募・学校文集・卒業アルバム等					
	ア 学校文集の廃止・見直し		◎	◎	○
	イ 卒業アルバムの内容縮小		◎	◎	◎
	ウ 各種作品募集の厳選		◎	◎	
④PTA活動の工夫					
	ア PTA奉仕活動を運動会準備等に振り替え		◎	◎	◎
	イ PTA総会の開催方法、活動内容の工夫と会議の削減		◎	◎	◎
	ウ PTAボランティア制度の導入(運動会、学校祭等)		◎	◎	◎
4 ボランティアとの関わり		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①ボランティアの活用					
再掲	ア 地域ボランティアの活用		◎	○	◎
	イ 大学生・高校生ボランティアの活用		◎	○	◎
	ウ 地域コーディネーターを窓口にした地域ボランティアの活用		◎	○	◎
5 教職員の健康確保の取組		市教委	学校 (組織)	教職員	保護者 地域
①教職員の心身の健康の取組					
	ア 教職員一人一人との日常会話を通じた課題解決のヒント、職員の健康状態の把握		◎	○	
	イ 職員室にチャイム付き時計の設置		◎	○	
	ウ 教職員自身による定時退勤日の決定 (週に1回17時退勤を目標)		◎	◎	